

(資料提供)

月 日(曜日)	担当館名	電話	担当者
9月26日(金)	県立近代美術館 文化の森企画広報室	電話 088-668-1088 ファクシミリ 088-668-7198	学芸調査課 安達、吉川、 江川 企画交流室 友井

所蔵作品展 徳島のコレクション 2014年度第2期 「特集 彫刻の目」の開催について

1. 趣旨

所蔵作品展は、当館のコレクションを紹介する展覧会です。その時々テーマを設定した「特集」コーナーと、収集方針に合わせた「20世紀の人間像」、「徳島ゆかりの美術」、「現代版画」のコーナーとで作品を紹介しています。

2014年度第2期(7/12-11/16)後半の特集は「彫刻の目」です。

この資料提供では、後半の特集「彫刻の目」の期間の展示についてご案内します。

2. 会期 開催中(平成26年9月17日[水])～平成26年11月16日[日]

3. 会場 徳島県立近代美術館

4. 開館時間 午前9時30分～午後5時

5. 休館日 月曜日(10月13日、11月3日は開館します)、10月14日(火)、11月4日(火)

6. 観覧料 一般 200円(160円)

高校生・大学生 100円(80円)

小学生・中学生 50円(40円)

高齢者(65歳以上)、障がい者とその介助者1名は無料

※()内は20名以上の団体料金です。

※その他無料日があります。

・小学生、中学生、高校生は、土・日・祝日、振替休日、秋休み期間は無料です。

・大学生、一般は、祝日、振替休日は無料です。

※11月3日[月]～11月16日[日]は、「とくしま文化推進期間」により、所蔵作品展は全ての方が無料となります。

7. 内容

【特集 彫刻の目】

会場：展示室1

出品点数：全12点

内容：美術作品を鑑賞するとき、彫刻は絵画に比べてアプローチが難しいようです。それは、目の前に具体的に物体があるばかりに、その物の“なに”を“どう”見たらいいのかとまどうからではないでしょうか。

今回は、そのとまどいへの案内として、目に注目して見ることをお勧めするものです。うつろな目、異様な光りを宿す目、目ぢからのあるもの、目がはっきりと作られていないのに視線が感じられる作品など、個性豊かに表されています。その作品の目を見て得た印象をもとに、作品全体を眺めてみるというのはいかがでしょうか。目を見て彫刻と対話してみてください。

【20世紀の人間像】

会場：展示室 1

出品点数：14 点

内容： 展示内容は今期前半と同じです。

このコーナーでは、収集の柱の一つ「20世紀の人間像」で収集された作品を順次展示替えをしながらご紹介しています。定番のクレーやピカソの作品のほか、微妙な平和感を漂わせる香月泰男の作品〈人と箱〉を始め、戦後10年くらいの間に描かれた作品をご覧ください。

また、第2期の会期中に、文化の森で「四国へんろ展」が開催されるのにちなんで、小コーナー「巡礼・彷徨」を設けます。四国遍路に直接的に関係するものではありませんが、宗教画をイメージに取り入れたマイク&ダグ・スターンの〈ゴシック(合板)〉と巡礼者を題名に含む奈良美智の〈The Little Pilgrims(Night Walking)〉(小さな巡礼者)を展示します。

【現代版画】

■オノサトトシノブ

会期：開催中(9月9日[火]～10月13日[月・祝])

出品点数：15 点

■黒崎 彰

会期：10月15日[水]～11月16日[日]

出品点数：14 点

会場：展示室 1

内容： 2014年度第2期では、異なる技法を用いている4人の作家を個展形式で紹介しています。今回は後半の2人です。

オノサトトシノブ(1912-1986)はシルクスクリーンとリトグラフ(石版画)を用いている作家です。戦後まもなくは具象的なモチーフを取り上げていましたが、1954年頃から円形を取り上げるようになりました。その後、朱、黄、緑、紺の4色を基調として、画面全体を覆うモザイク風の方角群から円形が浮かびあがる幾何学的抽象様式を確立しました。

黒崎彰(1937-)は木版を用いている作家です。大学時代にはデザインを学ぶ傍らで、幕末の浮世絵の収集をしていました。そして、卒業後の1965年から独学で木版画を手がけるようになります。当初のモノクロームの作風を経て、鮮烈な色彩と有機的なフォルムが構成される独自の様式を生み出しました。

【徳島ゆかりの美術】

会場：展示室 2

出品点数：36 点 9月8日(月)に一部展示替えを行いました。前期から引き続き展示されている作品が33点、後半(9/9～11/16)のみ展示の作品が3点です。

内容： 展示内容は今期前半とほぼ同じです。作品保存上の理由から、小コーナー「山下菊二の戦争体験」で3点の作品を入れ替えています。

展示室の前半には、果物や花など卓上の静物が描かれた作品を展示します。清原重以知(阿南市出身、1888-1971年)の細密な描写、伊原宇三郎(徳島市出身、1894-1976年)のキュビスム的な構成、島あふひ(小松島市出身、1896-1988年)の重厚なマチエールなど、様々な表れをお楽しみ下さい。

展示室の後半は、小コーナー「山下菊二の戦争体験」となります。先の大戦の時代、山下菊二は2度召集を受けました。最初に従軍した中国南部の戦線では、筆舌に尽くしがたい残虐行為を目撃し、自らも加担することを余儀なくされたと

いいです。戦後もそのことが、心のわだかまりとなっていた山下は、自らの戦争体験を問い続け、やがて戦争や差別など、さまざまな人権侵害の問題を世の中に訴えかけることを、制作の課題としていきました。戦中戦後の作品や遺品をもとに、彼の思索の過程をたどります。

また、佐野比呂志（板野郡出身 1919-2013 年）の作品 2 点を展示します。

○このほかに、美術館ロビー、屋外展示場、彫刻の小径に 13 点を展示します。

○作品保護のため、一部の作品は展示替えを行います。

○展示作品の合計は、47 作家による 104 点となる予定です。

・都合により内容が変更になる場合もあります。

8. 関連事業

【美術を楽しむ・わたくし流 この人に聞く「きんこのアート笑々(へらへら)」】

日時 : 10 月 5 日(日) 午後 2 時~3 時

場所 : 展示室 1

出演 : 西山欣子 (イラストレーター)

内容 : この「美術を楽しむ・わたくし流」は、美術以外の各界で活躍する方々に、展示会場で、その方ならではのやり方で作品の印象などを表現していただく催しです。

料金 : 観覧券が必要です。

申込 : 不要

【ギャラリートーク テーマで知る名品「彫刻細見 目ぢから」】

日時 : 10 月 13 日(月・祝) 午後 2 時~2 時 45 分

場所 : 展示室 1

内容 : 学芸員が特集「彫刻の目」コーナーの展示解説を行います。

料金 : 無料 (祝日は無料)

申込 : 不要

【こども鑑賞クラブ 所蔵作品展「彫刻」の巻】

日時 : 10 月 25 日(土) 午後 2 時~2 時 45 分

場所 : 展覧会場

講師 : 学芸員他

対象 : 小学生 (保護者同伴可)

料金 : 無料 (同伴の保護者は観覧券が必要です)

申込 : 不要

【広報用画像の提供について】

展覧会の広報用として、次の作品の画像を提供できます。

必要な場合はご連絡ください。

提供方法は、画像データの提供となります。

使用に当たって、作者名、作品名、徳島県立近代美術館所蔵の旨は、必ず表示してください。

●立体作品

作者名 パブロ・ガルガーリョ
作品名 〈キキ・ド・モンパルナスのマスク〉
制作年 1928 年代
技法材料 ブロンズ

